

東松山市誕生

1954(昭和29)年

梶田先生と振り返る思い出の一コマ

Vol.1

1954(昭和29)年7月1日、1町4村(松山町、大岡村、唐子村、高坂村、野本村)が合併し、東松山市が誕生しました。埼玉県下で12番目の市となり、住民は大変よろこびました。10月15日から3日間にわたって行われた祝賀行事では、餅つきとチンドン屋隊を乗せた花自動車が市内を巡回し、各町内9か所に設置された屋台舞台上、はやし、かぐら、曲芸などがにぎやかに繰り広げられました。

3日間毎朝6時30分に花火があがったよ



お祭り騒ぎだったんだね



キャラクター紹介

市内の小・中学生に配布された学習漫画『漫画でわかる 梶田隆章先生とニュートリノ』のキャラクターたちです。

ニュートリノ三兄弟



電ちゃん ミューやん タウっち

梨花(姉)



歩(弟)



梶田隆章先生



東松山市生まれ。東京大学宇宙線研究所所長・教授。1998年にニュートリノ振動の発見を発表。2015年にノーベル物理学賞を受賞。



たなかり えこ
田中理恵子園長



埼玉県こども動物自然公園

～園長おすすめ マヌルネコ～



みなさんの思いが形になった!

3月、新しい展示「マヌルロック」がオープンしました。マヌルネコの屋外放飼場です。野生ではモンゴル等の高地に暮らすため寒い冬には強いのですが、これまで冬の屋外展示施設がありませんでした。そこで「アニマル基金※」で新たな屋外施設の建設費用の募集を呼びかけたところ、たくさんの方からご支援いただき建設が決まりました。しかし新型コロナウイルス感染症が広まり、設計や業者さんとの打ち合わせなどが進まず、延期に次ぐ延期となり1年以上遅れての完成となってしまいました。

マヌルロックは、展示場の真ん中に作った大きな擬岩が名前の由来です。野生では岩の近くに棲み、岩やしげみなどに体を隠して目だけ光らせ獲物を捕らえます。その姿を垣間見ることが出来たら、とスタッフみんなで擬岩を作製しました。2月中旬に完成し、その後2週間以上かけて新しい放飼場にマヌルネコを慣らしていきました。放飼場にできるのは若いオスの「ロータス」。どちらかというと動じないタイプのはずですが、練習初日はなかなか展示場に出てくれませんでした。ふと見ると展示場とは違う方向をみています。その方向とは、高齢メス「タビー」の部屋。タビーはロータスのおばあちゃん。これまで出会うことのなかった2頭が、放飼場への新しい通路からお互いの姿が見えてしまったのです。心苦しかったのですがタビーの部屋の窓をカバーで覆いました。するとロータスはしょうがないか、と放飼場にでてくれるようになり、2日目にはさらに行動範囲が広がり岩の上まで上がってくれました。その姿は野生のマヌルネコのように凛々しく見え、ちょっと感動しました。

今度は、早くお嫁さんを見つけなくてはいいですね!

※アニマル基金…動物たちのより幸せな暮らしのための展示場のリニューアルや建設を目的とした基金



大きな岩が特徴のマヌルロック



初目 やっと一歩踏み出した瞬間!



2日目 ロックの上までいった!カッコイイ!

